



区民の皆様へ

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会

2016

第40号

平成28年11月1日発行

協議会だより

発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会/会長：青木 武雄

編集 総務広報部会 広報委員

総務広報部会

“生き生き第一から第五地区みんなでトーク”

～愛着と誇りを共有した中心地区のまちづくり～

今回の「生き生きみんなでトーク」は、8月31日（水）に第一地区住自協が当番幹事で、新装になった長野市芸術館「アクトスペース」にて第一から第五地区の住民と、加藤市長ほか長野市関係者が出席して開催されました。

冒頭、加藤市長から「もし、長野市が震度7の地震に襲われたら、2千人弱の方が亡くなると推測されます。もう一度耐震に対する対応をしていきたい。また、市も今までの待ち・受け身の姿勢から、各支所に専任の「地域きらめき隊員」として優秀な人材を投入し、皆さんと一緒に地域全体を良くする施策に取り組みます。また、中心市街地の活性化にも取り組んでまいります」と、挨拶されました。

議事は、地域の活性化、防災体制の拡充、権堂地区再生計画と誰もが住みやすいまちなど、活発な議論が交わされました。



第五地区からは、青木住自協会長から中部公民館第五分館の利便性の向上について、「老朽化が激しく多くの不具合が生じている。地域住民の利用も多いため、地域コミュニティの場として建て替えを要望します。難しい場合は、耐震化工事に併せて、利便性を向上させた改築をお願いしたい」と提案しました。これに対し市からは「第五分館は昭和52年に建築基準法の新耐震化基準が制定される前に建築されました。今年11月から耐震補強工事に着工しますが、この際に床やトイレの改修、エアコンの取り替え、畳の張り替え、照明の取り替えをして、利便性の向上を図りたい」と回答いただきました。

また、安全なまちづくりに関して、五明副会長から「大災害が発生した際には、緊急車両などで駅周辺は、大混乱が予想されます。交通規制や住民の避難経路を十分検討して、住民に周知徹底してほしい」など市に要望しました。



安全防災部会

千石繁華街で防災訓練

～建物密集地での火災発生を想定して～

長野駅前千石劇場周辺には、飲食店などが密集して消防車が進入できない繁華街が所在しております。過去に何度かボヤや火災が発生しております。

9月6日（火）に長野市消防局、長野駅前交番の協力を得て、末広町・南北石堂町の防災関係者が参加して防災訓練を実施しました。

この地帯は側溝を含めて4m幅の道路で、各店舗の看板が張り出し、上空には電線が密集して張り巡らされて、はしご車などの大型車両は進入が不可能な場所です。千石劇場付近の店舗から火災が発生した想定で、末広町のセントラルホテルさん2階屋内消火栓から20mホースを3本接続し、火災現場まで延ばして放水訓練をしました。



新たな訓練なので、今後課題を整理して改善を加え、繁華街での防災対策を更に強化し、定期的実施していきたいとのこと。

この訓練には、信濃毎日新聞、信越放送、長野市民新聞などが取材に訪れました。

子どもカヌー体験教室

～初体験の全員が楽しく乗りこなしました～

長野市が推奨する地域間交流事業で地域の活性化を図るため、第五地区住自協は信州新町地区住自協と交流しております。学校の夏休みが始まった初日の7月28日（木）に、学童15名と付添のお母さんなど12名が、信州新町を訪れ犀川の東京電力水内ダムでせき止められている「ろうかく湖」で子どもカヌー体験教室に参加しました。

体験する学童は小学5、6年生で、全員が初めての体験でした。信州新町美術館裏の犀川河川敷で、犀峡高校カヌー部の先生から、パドルの使い方・回転の仕方などの指導を受けました。このあと、カヌーに乗り込み、カヌー部員のマンツーマンの同伴指導で、上流へ向かって約1kmを往復しました。

最初はパドルの使い方に戸惑う子どもたちもいましたが、直ぐに要領をマスターして、得意げに漕いで景色を堪能していました。

倉島 慧 君（小学5年生）は「直ぐに慣れて、とても楽しくできました。気分が良かったです。」と得意げに話してくれました。

昼食のあと、化石博物館を見学しました。学芸員の説明で、海のない信州新町から発掘された世界最古のクジラの化石や、恐竜の骨格標本などの展示に興味深く見入っておりました。

学童には夏休みに入っの初日に、宿題の日記の題材が色々見つめることができた一日でした。



認知症サポーター講座

～認知症を正しく理解して温かく見守る～

尊厳をもって最期まで自分らしくありたい、これは誰もが望むことです。この願いを叶えるためには、認知症は深刻な問題になっています。

認知症を学び、認知症の人やその家族を地域で支えようと、7月31日（日）に中御所公民館で「認知症サポーター講座」を、中御所区・中御所公民館と第五地区健康福祉環境部会の共催で開催しました。講師には長野市保健福祉部介護保険課・中部地域包括支援センター係長で保健師の高戸谷千志美さんをお招きしました。

認知症は誰にも起こりうる脳の病気によるものです。認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果まわりの人との関係が損なわれることもしばしば見られ、介護で家族が疲れ切って共倒れしてしまうことも少なくありません。しかし、周囲の理解と気遣いがあれば穏やかに暮らしていくことは可能とのことです。

誰もが認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手だてを知っていれば「尊厳ある暮らし」を皆で守ることができます。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったりして、脳の司令塔の働きに不具合が生じます。様々な障害が起こり、生活する上での支障がおよそ6カ月以上継続している状態を指します。

認知症の早期の発見、早期の受診・診断、早期治療はその後の認知症の人の生活を左右する非常に重要なことです。認知症はどうせ治らないから医療機関にかかっても仕方ないという誤った考え方は改めましょう。

認知症の人への対応の心得は“3つの「ない」”。1 驚かせない、2 急がせない、3 自尊心を傷つけないを心がけましょう。

高齢者の介護と福祉の相談は、長野市地域包括支援センター「コンフォートにしつるが」 ☎219-3510にお気軽にご相談ください。



各町からのお知らせ



中御所 より

子どもみこし

子どもみこしは長野びんずるが行われた8月6日（土）の午後に行われました。この日は猛暑日を記録した暑い陽射しの中、中御所地区の子どもたちは中央通りの出発点TOiGO前に集合し日陰で水分を補給し待機していました。



今年の子どもみこしには、7町が参加しました。中御所からは、50人以上が参加し総勢約120人で参加中最大の連を組んで参加しました。先頭で太鼓を叩く大役を担った風間勲太郎君は「暑いけれど、皆が見ているのでがんばって真剣に叩きます。」と誇らしげに語りました。

午後1時に大勢の子どもたちを含め総勢約400人は役員に付き添われて、新田町から調子を合わせて引綱を引いて、善光寺山門を目指して元気よく出発して行きました。

TOiGO広場では、特設ステージで数々のイベントで盛り上げ、大勢の方が観覧しておりました。



北石堂町・南石堂町・ 末広町より

楽しいBOSAI (防災)

～特殊車両に多くの子どもたちが見入っていました～

長野びんずるが行われた8月6日（土）は、中央通りが歩行者天国になり、子どもたちのために防災イベントが行われました。

北石堂町・南石堂町・末広町商店会の防災関係者（委員長：井川誠氏）が、災害が発生した時、その地域の人たちを援助・対策などしてくれる特殊な車両を展示し、子どもたちに体験を通して防災を考えてもらうために企画したもので、関係者は親切に説明しておりました。

この日は猛暑日にも拘わらず、大勢の子どもたちがお父さん・お母さん同伴で各車両にももの珍しそうに群がっておりました。

特に、緊急時に現地に駆けつけて水を供給する、長野市上下水道局の給水車は、紙コップに給水して飲ませてくれ、子どもたちは暑さから美味しそうに水分補給をしておりました。

また、国土交通省の対策本部車は、災害発生時に、早急な応急復旧活動を行うため、応急組立橋や災害対策用資機材を保有し災害に備える車両で、会議室にも利用できる広い室内に入りこみ、色々な機材を熱心に見ておりました。

その他、日赤の移動診療車、NTT東日本の災害用伝言ダイヤル車、自衛隊の災害

の際に出動する特殊車両などが展示され、それぞれ乗り込んだり、触ったり真剣に見学していました。

水消火器での的当て体験コーナーでは、子どもたちが順番に簡易消火器で的を狙って倒しておりました。普段目にするのが少ない災害時の特殊車両が一堂に揃い、一台ずつ真剣に見学して説明を受けておりました。

中央通り（かるかや山交差点～新田町交差点）の活気を取り戻すこの企画は、大きな反響をもたらしました。



各町からのお知らせ

中御所 より

観音寺四万八千日

中御所観音寺の夏恒例の観世音縁日の四万八千日が賑やかに開催されました。毎年8月9日が縁日で、この日に参拝すれば四万八千日参拝したのと同じ功德があるということから名づけられたそうです。

日が暮れてから、参拝客が近郊からも、御利益にあやかろうと大勢訪れ、名物の「子供腕相撲大会」には沢山の子どもたちが集まり、午後7時からの開始時には、順番待ちで群がっておりました。行司役の公民館役員の仕切りで、学年別に全力で戦って賞品を勝ち取っておりました。



また、境内には金魚すくい、くじ引きゲーム、取れ立て野菜販売など、数々の屋台が並び皆さん買い求めておりました。特に名物となっている、波田産スイカ、黒姫産とうもろこしは飛ぶように売れて、早い時間に売り切れてしまう状況でした。

この観音寺は北国街道沿いの由緒ある寺で、昔は人の往来が多く賑わいを見せていました。本尊は馬頭観音だそうです。



現在の寺殿は200年前の文化10年（1813年）に再建されました。また、中御所の由来は、建久8年源頼朝が善光寺に参詣した時、漆田氏の館（後の信濃守護所）に宿泊したので御所の地名がついたそうです。

周辺の通りには、名物の地口灯籠が明かりを入れて飾られ、お祭り気分を盛り上げておりました。

北石堂町 より

秋葉神社・玉取稻荷秋季大祭 ～大勢が参拝に訪れて賑わいました～

台風も過ぎ去り、秋晴れに恵まれた9月3日（土）は、真夏日になり夕方からはいづらか、しのぎやすくなりました。日が暮れてから、北石堂町の火防之神を祀る秋葉神社と刈萱山、西光寺境内に祀られる、家内安全・商売繁盛・縁結祈願の正一位玉取稻荷大明神の秋季大祭が執り行われました。



秋葉神社前の、山王―栗田線の道路は車両通行止めになり、路上には綿あめ・ポップコーン・かき氷・焼き鳥・生ビールの屋台が出店し、お休み処には夕涼みがてら大勢の参拝客で、各ブースともなごやかに歓談などで賑わいました。



午後7時から御礼・富くじ券が参拝客に配布され、子どもたちなどで長蛇の列ができました。そして午後8時30分から抽選会が開かれ、町内の各商店などから寄贈された豪華賞品が当選者に授与されました。当選者は大きな紙袋を抱えて満足しておりました。また、玉取稻荷にも大勢の参拝客が訪れました。

町内の通りには、名物の地口灯籠が明かりを入れて飾られました。また、2頭の神楽が町内の商店や家庭を回り神楽舞が奉納され、祭りの雰囲気でも盛り上がりおりました。



事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせください。

〒380-0833
長野市大字鶴賀権堂町2201番地20
権堂イーストプラザND 1階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)
メール dai5@feel.ocn.ne.jp